



プロフィール

高松 平藏(たかまつ へいぞう)

※漢字にご注意！「蔵」ではなく「藏」です。コピーでどうぞ。

肩書き ■ ドイツ在住ジャーナリスト

略歴 ■ 1969 年奈良県生まれ。会社勤務後に独立する。その後、京都経済新聞社を経てジャーナリストに。97 年ごろからドイツ・エアランゲン(バイエルン州)と日本を行き来する。2002 年から同市を拠点にして現在に至る。雑誌・新聞などへの寄稿や講演のほか、調査プロジェクトの受託なども行っている。

取材分野と基本姿勢 ■ 取材分野は環境問題、IT、文化・芸術、経済など多岐にわたるが、いずれもエアランゲンおよび周辺地域で取材。日独の生活習慣や社会システムの比較をベースに地域社会のビジョンをさぐるような視点で執筆している。また講演などにもそういった視点を重視した内容にしている。

執筆以外の仕事 ■ **【講演】**環境問題、自転車道、文化政策、社会保障、道州制、教会、CSRなど
【調査プロジェクト】地域経済(クラスター政策)、地方行政、文化・芸術の助成金制度、音楽アーカイブなど

著書 ■ 『エコライフ ドイツと日本どう違う』(化学同人、2003 年 妻アンドレアとの共著)
『ドイツの地方都市はなぜ元気なのかー小さな街の輝くクオリティ』(学芸出版、2008 年)

Web ■ **インターローカルジャーナル** <http://www.interlocal.org/>

『インターローカルニュース』というメールマガジンを 2000 年から発行。ウェブサイト『インターローカルジャーナル』内ではバックナンバーが読める。

記事の内容はエアランゲンを中心にした周辺地域のニュース。すなわちドイツのある地域の出来事について取材・分析を加えた記事ということになるわけだが、こういった記事が日本国内で自分の地域社会のことを考えている人にとってヒントになれば、と考えている。国境を越えた地域間報道を想定して展開しているので『インターローカルジャーナル』と名づけている。

家族 ■ 妻と子供(一男二女)

その他 ■ ・ 大阪に拠点をおく NPO「recip(レシップ/地域文化に関する情報とプロジェクト)」監事
・ JCDN(Japan Contemporary Dance Network)会員
・ 写真も少々:エアランゲンのフランス人アーティスト、ジェローム氏が企画したアートプロジェクト『地下鉄でクイズ』(ニュルンベルク市)に参加。写真を提供した。(2007 年)

居住地であるエアランゲン市について

エアランゲンはドイツ南東部、バイエルン州に位置する街。戦後の裁判で世界史の教科書に出てくるニュルンベルグと隣接している。

世界的総合電機メーカー・シーメンスの一拠点であり、またエアランゲン＝ニュルンベルグ大学がある。ホワイトカラーと学生の街で、比較的市民層のばらつきが少ない。

外国人市民は約140カ国から。市の人口の15%をしめる。(ドイツ全体の外国人比率が8%程度)

それから筆者の印象としては大学やシーメンス社があるために、外国人といってもホワイトカラーと研究者がけっこう多いように思われる。ちなみに日本人の数は約100人程度いる。そんなエアランゲンはとりたてて観光資源があるわけでもない。それにしても

- ・緑の中の小さな大都市
- ・歴史があつてかつイノベティブ
- ・医療と大学の町

といったいくつかの横顔がある。2002年にはエアランゲンの1000年記念年を迎えた。

人口は約10万人。77平方キロメートル。1970年代には先駆的に自転車専用道路を整備し、環境共生都市としても知られた。

また毎年『詩人の祭典』、2年ごとに『国際コミックサロン』『フィギュア・フェスティバル』といった文化フェスティバルがおこなわれている。

■「小さな大都市」の経済力

エアランゲンは『小さな大都市』と呼ばれることがある。もっともこの言い方はドイツの都市ではよく使われる。自治体の規模が全体的に小さなドイツでは10万人クラスの都市を『大規模都市』とされているが、これぐらいの都市になると、けっこうな独自性があり、経済政策もなかなかしっかり行っているところが多い。

とりわけエアランゲンはその代表格といえるだろう。1990年代半ば以降は産官学の結びつきを強め、医療技術に特化して、医療・健康都市にしていく戦略を打ち出している。

その結果、ドイツ国内でもトップクラスの経済発展のポテンシャルをもち、周辺地域をさすミッテルフランケンでも企業にとってトップの立地政策を展開している。(了)

(高松 平藏 2007年12月執筆)

